



お母さんの血が、わたしの体に流れていないって本当なの

赤ちゃんの体は、「へそのお」でお母さんにつながっている

おなかの中の赤ちゃんは、「へそのお」で、お母さんにつながっています。

へそのおの中には、「さい動脈」と「さい静脈」という血管があり、その中を流れている血液を通して、赤ちゃんに必要な酸素や栄養は、お母さんから送られ、赤ちゃんのいらなくなったものは、お母さんにわたされて、お母さんが捨ててくれているのです。

しかし、だからといって、お母さんの血が、「へそのお」を通して、赤ちゃんの体に、流れているわけではありません。

赤ちゃんは、自分の血液を、自分でつくっている

おなかの中の赤ちゃん（胎児）は、自分の血液は、自分の体の中でつくっています。

そして、赤ちゃんの「へそのお」の中の血管は、お母さんのおなかの中にある、「たいばん」につながっています。「たいばん」には、お母さんの血管もきていますが、赤ちゃんの血管とは、つながっていません。しかし、「たいばん」の中で、赤ちゃんの血液は、お母さんの血液から、自分の体に必要な酸素や栄養などをもらい、自分のいらなくなったものを、お母さんの血液へわたしているのです。

ですから、お母さんの血が、そのまま、赤ちゃんの体に流れているのではないのです。それは、お母さんの血液型と、赤ちゃんの血液型とがちがっていることが、よくあることでわかります。（監修・保志 宏）

